時空散走 ebino

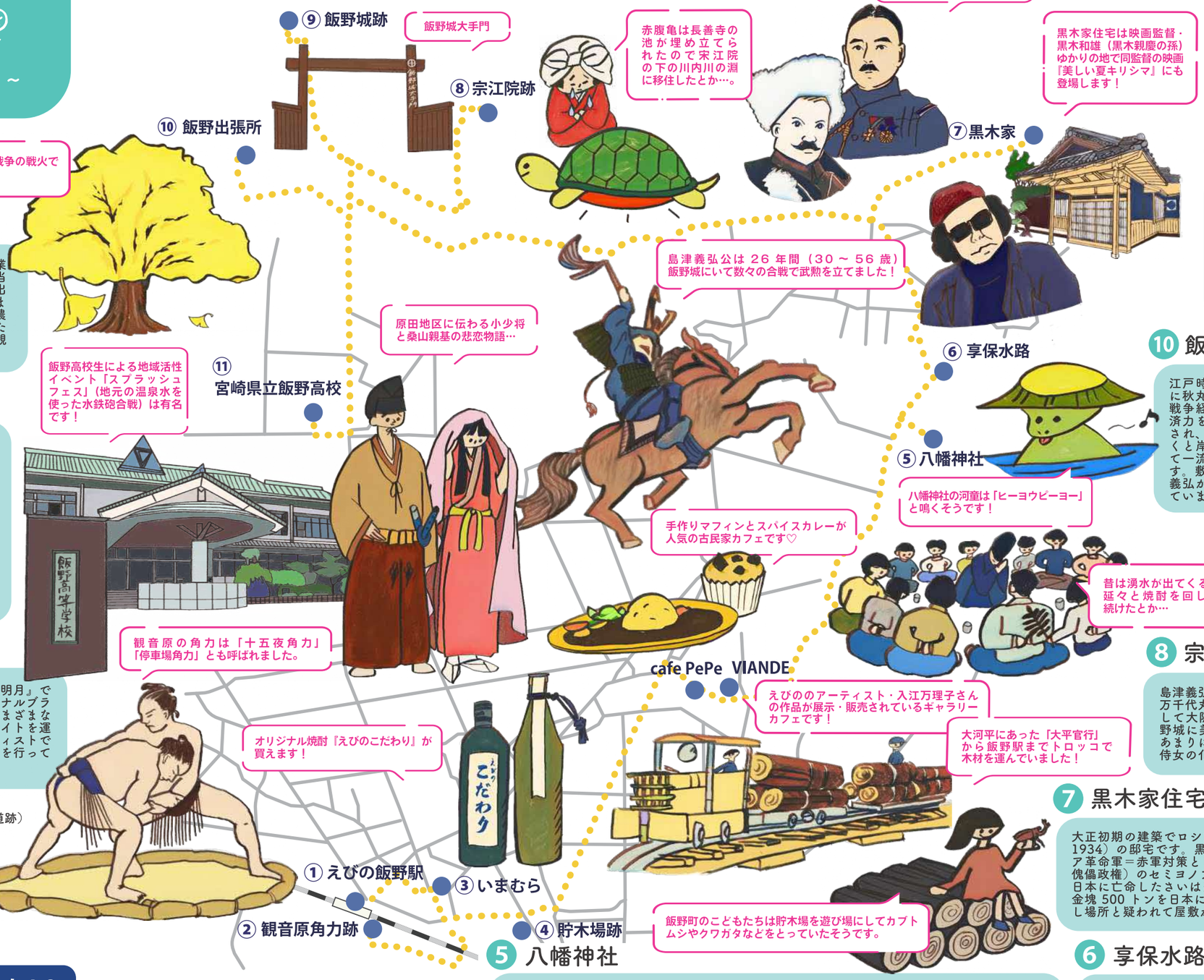
～えびの飯野駅コース～

距離：約 8 km　サイクリング所要時間：約 36 分　ウォーキング所要時間：約 108 分

樹齢 400 年！飯野の大イチョウは知っている

～観音原角力からフランス山、小少将の伝説まで～

古代、神武天皇が訪れて五穀の種子を蒔き、その稲が大いに繁茂したため、この地を「飯野」と呼ぶようになったといいます。「島津の退き口」で、その武名を天下に轟かせた名将・島津義弘が壮年期を過ごした飯野城があり、義弘お手植えの樹齢 400 年の大イチョウは、いまもえびの市飯野出張所にあります。大イチョウが眺めてきた飯野の歴史、文化、物語の舞台を巡ってみましょう。



① えびの飯野駅

大正元年（1912）に飯野駅として開業しました。『飯野町郷土史』によると当初は飯野町役場（現・えびの市飯野出張所）付近に駅を設置する案もありましたが「汽車が通るたびに小作人が農耕をさぼる」「農耕馬が驚く」といった地主の反対意見で、なにもない野原（観音原）に駅が設置されました。

② 観音原角力の跡地

木崎原合戦で敗死した伊東勢が怨霊となり、多くの牛馬が疫病で亡くなったので、それを鎮める馬頭観音を祀り、旧暦 8 月 15 日に角力が奉納されるようになったといいます。明治初期には田ノ上の徳平実五郎や田代の田代七造といった力士がいて西は加治木、東は都城まで無敵の強さを誇ったといいます。熱狂するファンが詰め寄って土俵下で喧嘩をしたり、行司（加久藤町の津曲十右衛門という老人）が力士を軍配で殴ったという記録などもあり、飯野町最大の祭礼でした。

③ いまむら（焼酎専門店）

戦前からある老舗の酒屋です。焼酎『明月』で有名な明石酒造と共同開発したオリジナルブランド焼酎『えびのこだわり』など、さまざまな焼酎・お酒を販売しています。通販サイトを運営している今村勇太氏はポイ・アーティストで世界各国でパフォーマンスやセミナーを行って活躍しています。

④ 飯野貯木場跡（森林鉄道跡）

昭和 2 年（1927）、飯野駅前に飯野貯木場ができると大平官行（おおひらかんこう）まで約 30 キロの森林鉄道が敷かれ、トロッコ列車で材木などを運びました。

～ 小少将伝説 ～

都城島津家の北郷時久（1530 ～ 1596）の侍女に小少将という絶世の美女がいました。天正元年（1573）、蹴鞠の宴で若武者の桑山親基と出会って恋に落ちますが、城中は恋愛禁止なので駆け落ちします。それを知った時久は激怒し、天長寺の僧に足止めの呪術をかけさせると、2 人は道に迷って 7 回も同じ場所にでて前に進めなくなり、ついに心中しました。この小少将は原田出身という伝説があります。

⑪ 宮崎県立飯野高校

戦後、飯野町、加久藤町、真幸町には高校がなく、こどもたちは町外に通学していました。隣の小林市にばかり県立高校（工業高校、商業高校）が設置され、飯野の中間俊範町長は「高校を設置しないのであれば鹿児島県に編入する」と大型バスで乗り込んで宮崎県庁と鹿児島県庁に陳情しました。前代未聞の分県運動の効果は絶大で、ついに昭和 40 年（1965）に飯野高校が開校しました。じつは高校の存在は三町念願の市昇格の条件のひとつであり、飯野高校開校は昭和 45 年（1970）のえびの市誕生にも繋がりました。

⑩ 飯野町役場跡（現・えびの市飯野出張所）

江戸時代は薩摩藩の地頭仮屋（役所）でした。戦後の飯野町長に秋丸次朗（1898 ～ 1992）がいます。次朗は陸軍主計中佐で戦争経済研究班「秋丸機関」のリーダーです。日米英独伊の経済力を調査し、太平洋戦争の敗北を予見しましたが軍部に無視され、戦争回避に失敗しました。町長時代に出張で東京駅に赴くと岸信介首相（満州国で共に仕事をしていた）に出迎えられて一流料亭で歓迎会をされ、同行した職員が仰天したといいます。敷地内の大イチョウは高さ約 21m、幹周り約 9.6m で島津義弘が病気で早逝した長男・鶴寿丸の供養で植えたと伝承されています。

⑨ 飯野城跡

永暦元年（1160）に真幸院司の日下部氏が築城したといいます。その後、北原氏の居城でしたが、永禄 7 年（1564）に島津義弘の居城となりました。

⑧ 宗江院跡（赤腹亀伝説）

島津義弘（1535 ～ 1619）の父・貴久（1571 年没）の供養碑や四男・万千代丸（1588 年没）の墓があります。万千代丸は秀吉の人質として大阪へ向かう途上、9 歳で病没しました。また義弘時代の飯野城に美しい侍女がいましたが、酒宴で放屁をして恥ずかしさのあまりに長善寺の池に投身し、その後、池で腹が赤い亀が見つかり、侍女の化身といわれました。

⑦ 黒木家住宅

大正初期の建築でロシアに駐在した陸軍少佐・黒木親慶（ちかのり）（1883 ～ 1934）の邸宅です。黒木はザバイカル共和国（1918 ～ 1920。日本政府がロシア革命軍＝赤軍対策としてザバイカル地方のコサック＝白軍派を支援して作った傀儡政権）のセミヨノフ将軍（1890 ～ 1946）と昵懇で、将軍が赤軍に敗北して日本に亡命したさいは当地に匿いました。将軍にはロシア帝国・ロマノフ王朝の金塊 500 トンを日本に密輸したという「セミヨノフの金塊伝説」があり、その隠し場所と疑われて屋敷が荒らされた時期もありました。

⑥ 享保水路とカンナレナンコ

享保水路（享保 17・1732 年完成。総延長約 6.8 キロ）は飯野の水田を潤す灌漑用水路です。毎年、五月下旬の水神祭のさいに水源地（西小川・河頭）で「カンナレ（雷）ナンコ」が行われます。参会者は円陣を組んで右廻しに榊の御幣をうしろ手で渡していきます。真ん中に目隠しをした雷神（鬼）がいて「ゴロゴロゴロ…」と雷鳴をまねて突然「ドーン」と落雷の音を叫び、その時に御幣をもっていた人が焼酎を飲んで雷神となります。現在は形式だけで、焼酎は飲まずに参会者全員が雷神を担当すると終了します。

⑤ 八幡神社

第 15 代応神天皇と島津氏の分家である総州家の 5 代目・島津犬太郎久林（ひさもり）（1413 ～ 1430）が祀られています。久林は島津氏の奥州家（現・宗家）との権力争いに敗れ、八幡神社前で落馬して絶命しました（総州家の滅亡）。その後、神社前を馬で通ると凶事が起こると畏れられました。また『えびの風俗誌』によると春彼岸の頃に河童（がらっぱ）が神社参道を下り、川に入ったといいます。ある時、大平落（おでらおとし）の堂領仁エ門という名物爺さん（焼酎好きで朝から飲めば飲むほど元気になった）が河童の鳴き声を聞いたので「河童を捕まえてくる！」と鉄砲をもって出ていきましたが姿が見えず、夜明けに帰ってきました。

飯野町にフランス山があった！？

明治 36 年（1903）、フランス系資本の東洋製材株式会社が大河平（おこびら）の森林資源を活用しようと大工場を建設しました。突如として飯野の山奥にフランス人が現れ、自転車で飯野の町を訪れ、オートバイで村の街道を蹂躙したといいます。外人住宅は電話が鳴り、タイプライターが叩かれ、蓄音機から異国の音楽が流れ、飯野住民からは「フランス山」と呼ばれました。しかし労働争議や洪水などで経営不振に陥り、大正初期に東洋製材は撤退しました。

〈えびの時空散走プロデューサー〉陸奥賢　〈主催〉宮崎県、アーツカウンシルみやざき　〈コーディネイター〉林田古都里　〈マップ制作〉小宮さえこ　〈協力〉えびの市、宮崎県立飯野高校、下原田寿　－宮崎県 地域の魅力再発見支援事業－

※このマップはえびの時空散走プロジェクトのツアー時に使う独自資料ですがオープンソースとして提供されています。2025 年 3 月現在のもので道路状況など変更の可能性があります。最新の地図などと照合しながらご使用ください。※マップの解説などは現地リサーチ、関連資料を参考にしていますが、専門家によって多様な意見があります。真実はあなた自身が現地を訪れて確認してみてください。